

## 林地へのワラビ植栽で再造林意欲を喚起する

### 1 はじめに

当センターでは、平成28年度から地域経営推進費を活用して低コスト再造林調査を実施しています。

初年度は、スギ造林地にワラビ根を植付け、下刈の省略や苗木への影響等の調査を計画しましたが、伐採後5年以上経過した調査地では雑草木と自生ワラビが多く、下刈の省略化は困難と判断しました。このため平成29年度は、他県の事例を参考に、伐採直後のスギ、サクラ造林地にワラビ苗を植え、ワラビの早期収穫・収入によって森林所有者の再造林意欲を喚起する一造林技術としての可能性を検証することにしました。

### 2 植栽地の概要

ワラビ植栽地は、西和賀町川舟地内の約100年生のスギを伐採・搬出後、機械地拵えをした平坦地で、6月上旬にスギ（3千本/ha）とサクラ（千本/ha）を植栽しました。

そのスギ、サクラ造林地に10m×10mの方形調査区を合計6区設け、生育状況等を観察していくことにしました。その内訳は、苗間1.0m



ポット苗（土を剥いた状態）

(81本/a)と1.5m(36本/a)のワラビ植栽区と無植栽区の計3区×2樹種です。

### 3 ワラビ苗の確保と作業状況

ワラビ苗の確保と植栽に適した造林地を検討していたところ、町農業振興課の伝でポット苗を確保できる事になり、森林組合を介して森林所有者の了解も得ることができました。ポット苗は移植ベラで簡単に植付けでき、ワラビ根に比べ作業が早く活着率も高いので文句なしでしたが、植栽後に灌水が必要なのがネックでした。しかし、これも程無く慈雨に恵まれ全て上手く運びました。



ポット苗（既に茎葉が伸張している）

### 4 終わりに

平成28年度は、ワラビのカバークロップで下刈の省力化を目指しましたが、ツルやバラが多いと一概に省略できないことが判りました。平成29年度は、ワラビ収穫で早期収入が得られれば再造林が後押しされるのではとの視点で調査し、価格の高い西ワラビの今後の生長を追跡していきます。